

創造表現コース(2年生 学校設定科目)

2回目の諏訪哲史さんによる授業が開講されました。

諏訪哲史先生の本年度、第2回目の授業です。今回は横光利一「蠅」「春は馬車に乗って」を自分たちで読んできた上で、生徒による感想発表と、その文体から考える文学講義でした。諏訪先生の講義は、常に「創作とは」を意識した内容で、表現者の目線から文学が語られており、学校教育ではなかなか耳にできないものになっています。生徒にとってはもとより、諏訪先生自身が「あつという間」に感じるほど濃厚な授業時間を過ごしました。

諏訪先生は、文学史とはどのようなものなのかを「文体」に着目して伝えてくださり、「文学史とは日本語の発見」であることを教えてくださいました。今回の授業を受けて、「理解が深まった」「横光利一の意図が理解できた」「作品をおもしろく感じるようになった」と、生徒自身も読みが深まったことを認識している様子でした。



諏訪先生の授業は2時間連続の授業です。1時間目の冒頭、諏訪先生が執筆された新聞記事が配布されました。俳句をとりあげた記事で、そちらの面にも造詣の深いご様子が見てとれました。それらの記事には、合計で俳句が30首ほど載っていました。2時間目に気に入った俳句を選ぶという活動が示され、生徒は面食らいながらも、授業の合間に選んでいました。選んだ理由や感想なども発表しましたが、なかには諏訪先生から感受性を褒められ、俳句を創作することを勧められた生徒もいました。

今回の授業内容は、1時間目に横光利一の著書を使いながらの講義と「蠅」についての感想発表、2時間目には「春は馬車に乗って」の感想発表と生徒が選んだ俳句についての講義という流れで進んでいきました。次回は「文体練習」(レーモン・クノー)を利用しての創作活動です。創造表現コースの生徒たちはどのような創作物を作るのでしょうか。

諏訪哲史 (すわてつし)

名古屋西高校、國學院大學文学部哲学科卒業。東海学園大学非常勤客員教授。名古屋鉄道を退職し、執筆を始め、処女作「アサツテの人」で文壇デビューをする。同作品は第50回群像新人文学賞と第137回芥川龍之介賞をW受賞するなど、高い評価を受ける。小説のみならず、エッセー集や文学批評集など幅広い分野で活躍している。2019年度より名古屋西高校創造表現コースの特別非常勤講師に就任。